

サービスマーケティングでの自分の成長

活動先：NPO 法人 エンド・ゴール

クラス：石川 満 先生

1. はじめに

私はサービスマーケティングでエンド・ゴールという若者の就労支援を行っている団体へ行かせてもらうことになった。

その中で一番衝撃的だったのは、サービスマーケティングの中で企画してきたことが急遽なくなり実行できなかったことだ。インターンの他の大学の学生とともに企画し、切磋琢磨に作り上げてきたことが、最後の実行という段階で無に帰ったことがとても悲しく、これが現実であり仕事であり学生の私たちからはどうすることもできなかったという現実がとても心残りというのが印象深かったと感じた。

実際にこのことが起きてしまった以上はしかたがないと割り切り、次の企画に打ち込み成果を出さなければならないのが仕事だといわれてしまうのが現実だ。しかし、私はどうしても自分たちで企画してきたことを行いたかったと心から思った。次何か企画を任せられるときには、最後まで実行したいという思いがとても大きく私の心の中にある。

2. 特に印象的だった活動

企画自体がなくなってしまったことも印象的でしたが、やはり企画する上でコラボレーションする相手先に出す企画書作りがとても印象深く残っている。コラボレーションしてもらうには相手のメリットを考えなければならず、ただコラボレーションをしてほしいだけではいくら得意先ですらコラボレーションはしてはくれないという難しさに直面した。しかし、時間をかけ制作した企画書を見てもらいコラボレーションできたときのうれしさはとても大きいものだった。

こういうサービスマーケティングの場で企画したことが実行できないということは大抵ありえないことだと思う。そう考えるのならば私たちは他の活動先に行ったみんなとは違い、いち早く社会の現実というものにあつたのだと理解できる。社会とは仕事とはこういうものだと気づかされ、とてもいい勉強になった。社会人になったら企画が通らない、途中で企画がだめになってしまうという状況は至極当たり前にあると思う。いつも成功とは限らないということを身をもって知ることができ成長できたと感じている。

しかし、失敗が当たり前になってはいけないということに気づくこともできた。失敗は仕方がないのかもしれないけれど、どうすれば失敗せずに企画が立てられるかという反省をし、成功に導くことが大切であると考えさせられた。社会に出てから失敗して取り返しがつかなくなってからこのことに気づくことよりか、今気づけたことがとても幸せだと思う。いくら失敗した人の体験談などで学んでいても実際に失敗してみることではまったく違い、失敗して気づくこともあるのだと考えさせられ勉強になった。

私はエンド・ゴールを選んで企画書を自分たちの力で考え、企画を最後までできなかった

が実行することができコラボレーションをお願いするために相手に理解してもらえるように試行錯誤したりなど様々な体験ができた。初めは違うところがよかったと思っていたが、夏休みのサービスランニングをやっていくうちに他ではできない社会に出てから体験することが、自分たちは他の人よりもいち早く体験できているのだと感じ、エンド・ゴールを選んでよかったと思っている。

3. 活動を通して見えてきた地域課題や社会課題

エンド・ゴールでの活動を通して感じた社会問題は、社会では私が思っているより若者の就職先がないと思った。ニュースなので言われる若者と言えば 18 歳以上からであり、高校を卒業した人たちの就職案内はあるのにそれより前に中学を卒業してから働かないといけなくなってしまった人々や高校を中退してしまった若者などの就職支援はあまりにも少ないと感じた。未来のある若者の就職支援をもっと増やしていくべきだと思った。

私たちが活動した NPO 法人エンド・ゴールは、主に若者の就労支援を行っている団体だ。サービスラーニングの活動で、その部分にあまり触れる事がなかったため、主な活動については学ぶことができなかった。エンド・ゴールでは 15 歳から 39 歳くらいまでの若者の職業的自立を支援している。いわゆるニートと呼ばれる人を中心に支援する活動を行っているが、ひきこもりと呼ばれるような、支援を受けない人達はどうしているのか考えた。

ひきこもりの人を支援していくために NPO 法人エンド・ゴールでは、まず興味を持ってもらうために、就職活動とイメージのあわない萌えキャラを敢えて用いたチラシを使って広告している。このようなユニークなチラシに興味を持ってもらえれば、相談してみようという気持ちにはならないだろうかと考えた。また、ひきこもりは、抑うつ状態や自尊感情の低下、対人恐怖といった心理的な問題を抱えている人が多いので、心理的な問題をケアすることも大切だが、私たちにできることは、ひきこもりの人が求めているような相談機関があることを広めることが重要だと考えた。

ひきこもりは、家に閉じこもっていて、ただ怠惰している人ではなく、仕事や就職活動などが原因でひきこもり、抑うつ状態や自尊感情の低下、対人恐怖といった心理的な問題を抱えている人が多い傾向にあることがわかった。相談したくてもどこに相談していいかわからない人が多いので、地域若者サポートステーションというところがあるというのを広く広告していかなければならないと思った。

4. 1 年間を通して

私はこの 1 年サービスランニングというゼミで大きく成長したと感じている。「仕事は常に成功とは限らない。失敗してもすぐに次のことを考えていかなければならない」というのをエンド・ゴールで学ばせてもらった。他のゼミを選んだ人よりも先に社会での仕事に携わることができ、社会に出てから身を持って感じるのではなく社会に出る前に身を持って感じ、社会に出たときはその身を持って感じたことがすぐに対処できる社会人になりたと思う。

報告会では他のゼミのグループの発表を聞いた。私たちのゼミでは 1 グループしか発表しなかったのもので、できることなら全てのグループが発表をしてサービスランニングをさせてもらった施設の方々に自分が学んだことなどを聞いてほしかったと思った。